

平成3年11月19日発行

鵠沼

久 久 比 奴 末

はまゆう と 櫻貝 と
海光る わが 故里

第 62 号

内容	老いはいづこに宿るべき	田中まさ子
	マラソン青年・新城弘三翁に聞く	取材記録
	引地川の沿革・年表	有田裕一
	引地川の水源地探訪記	遠藤隆二
	大庭の御厨とその背景（その2）	吉田興一

鵠沼を語る会

久久比奴末とは、「新編相模国風土記稿」（昭和8年刊）で、「くくいぬま」と読みます。これは鵠沼の地名なのです。

老いはいずこに宿るべき

田 中 まさ子

私が、この鶴生園でディサービスを受けるようになって三年たちました。

いま、痛切に時間が惜しまれる日々で、この園で過ごして、日々感じたことを書いておきたいと思います。

海の風の吹く鶴生園には、週に1回20人くらい集まって参ります。子供を育てたり、絵を画いたり、文学をしたり、幾春秋をこの鶴沼で暮らして老いた方々です。一日中車椅子の中で黙っている人、出たり入ったりして職員さんに追いかけている人、さまざまな老いの姿を見えています。それぞれ障害を持たれ、我慢して動いている。それは私も同じです。ある日、「語る会」の会員だった岩田さんが奥様と一緒に見えて、私に「言語障害があって、しゃべりません。どうぞよろしく。」とのことでした。あの歌人の岩田さんと驚きましたが、それは本当でした。それから少し日がたつてから、ある日私は岩田さんに話しかけました。「先生亡くなられて寂しいですよ。」と、岩田さんは急に別人のように言いました。眼を輝かせて、「あゝ、そう。去年の12月8日です。」と。先生とは土屋先生で、アララギ歌壇の最長老です。百歳まで歌集やその他アララギの会誌の編集をなさっていた方です。

それからは、私と岩田さんの会話は実にすらすらと進みました。

土屋先生は松本高女の校長として、大正11年に来られました。私の2歳上の従妹が当時この学校に学んでおり、若い32歳の東大出の校長により、進歩的な教育がなされたこと、信濃教育とはいっても、古い保守的な良妻賢母で裁縫・家事に重きをおいていた信州教育界は、土屋先生の新しい教育にはすぐ理解出来なかったことと思います。たった2年でお辞めになりました。私はその頃の先生のお歌はあまり拝見しませんでした。何となく、藤村を読み、白樺の文学にひかれていました。

人格を造る教育、先生の純粹さを亡き従妹は語っておりました。女流の歌人の歌も、今井邦子、三ッ島蓼子、杉浦翠子、原阿佐緒等と国語の時間に読んで下さったこと、百歳ま

でひとすじ歌を詠まれたことの大きさなどを言って、私と岩田さんは話し続けました。

また、日を忘れましたが、かつて「語る会」で、土屋先生が芥川さんへ送った植物が“葉ラン”であったか、“鶴沼ラン”であったかという論争がありました。その時、岩田さんは、「土屋さんに聞き合わせてみたら、まさか、芥川さんへ葉ランなど送らない。

とのお返事がありましたとのこと。先生の記憶はすばらしい。」と話されました。言語障害の岩田さんが、文学となると眼を輝かせて話されるのです。私の絵のお友達も、絵の話しになるとはっきりして、言葉はすらすらと出てきます。そこで、私はいつも不思議な思いでおります。

子や孫があっても、家にいられない、寂しい老人ばかり。しかし、寂しさがあってもボケられません。ボケたらさぞ楽だろうにと。

老人の福祉をいろいろたっていますが、いまの世では、寂しいことだらけです。私は土屋先生の歌集「青南後集」にある、この歌が切なく心にしみます。

ただ一つ下がる去年の橙あり

木の実は孤独といふことなく。

おわり。

マラソン青年・新城弘三翁に聴く

取材記録

この取材は、平成3年6月24日に、さる2月に青梅マラソンで最高年齢の部に出場して優勝した新城弘三さん(91歳)にお聞きしたものです。

場所：鵠沼公民館

取材者 遠藤隆二

吉田興一

私は、会津若松に生まれ、小学校卒業とともに、日本橋に店があつたので、東京に出てきた。その後、慶応に入り、大正14年に卒業してみると、当時の不景気に出会い、それなら大陸で一旗上げようと南満州鉄道KKの傍系会社に就職した。遼東半島の大連に住んでいたが、終戦でリュックサックひとつで満州から引き揚げたのです。そして、国税局で税金の仕事したりしていたが、三菱商事に17~18年いて、昭和45年に70歳で辞めました。丁度72歳のとき、藤沢に来て、鵠沼に住むようになった。東京で勤めていた頃は身体が弱くて、胃下垂やヘルニャで腰が痛いとか気管支が悪いとかでいいことなかった。コルセットして医者通いばかりして、72の歳でもう駄目かと思った。鵠沼に来て、すこしブラブラして、サイクリング・ロードを歩いたりしているうちに元気よくなったので、走りだした。走りだした途端に、身体の組織が変わりましてね、あれほど悪かったのが、みんな治ってしまった。以来鵠沼海岸から茅ヶ崎の海岸まで毎日走っています。ただ、昨今は毎日ではありませんがね。70を過ぎて身体を動かすことは、健康に非常に良いとおもいました。それまでは、薬と医者にはなせなかったね。

だんだん気力を回復してから、市役所に行って「なにか老後を過ごすものはありませんか。」といったら、地区老人会があるから、入ってみませんかとすすめられた。それで早速、鵠沼で草場さんが会長している若竹会に入ってみたが、女性ばかりで男性は私一人だった。当時、富士山(たかし)さんが、この「語る会」で芥川や岸田劉生などの古い鵠沼の話をしていた頃で、若竹会の役員をしていた。また、鵠沼海岸の後楽クラブにも入りました。会長は鵠南陸会の布施留吉さんです。そのうち様子がわかってきたので、公民館のサークルのフォークダンスに入った。ところが、ここも女性ばかり。老人なので、活発な

運動にはついてゆけず、加藤先生の体操の会に入った。もうひとつは、秩父宮体育館で健康体操グループにも参加した。物好きに女性ばかりのところへ入ってしまうが、飽きてしまうのでダメ。

青梅マラソンは、今年で8回参加しました。10*。走るんですよ。最高年齢なので心臓を調べたりしてとかうるさい。終ってテレビ東京で取材にきた。なま中継でやった。走るより取材のほうが大変で、何回も走り直したりした。私は、最高年齢になって4〜5年過ぎるんですが、今回90歳になったても完走できた。完走には、70分という制限がありますが、今年は制限など考えずに走りました。71分ぐらいかかったようです。スタートは、年齢順で80歳くらいが一番あと。スタートが終わるまでには5分かかりますね。女性は千何百人だから、女性を抜くのがまた大変。80歳以上になると気儘に走ったり歩いたり。第1回目の時は、スタートの日に行ったら、忙しくったてかなわない。受付からスタート地点までが1*もある。ここ4〜5年は、宿泊できるようになったので助かっている。一応の説明をしますと、出場申込は8月にする。10月に抽選がある。決定は11月頃で、資料は翌年の1月に送ってくる。参加料は1500円かな。そういうマラソンです。参加料は払ってもあと何もくれない。参加賞などを貰った覚えがない。私は、この2月には優勝したんで、新聞社がどここの部屋にきてくれたの、ゴールした後は、ワーッと来て、「いつから走っているのか」などと煩く付きまわられてかなわなかった。根ほり葉ほり聞いてくる。一番よく聞くのは、共同通信社で全国に報道する。「あゝ、しんちゃんまた走ったのか。」と電話が入ったりするんですよ。最も詳しいのは地元の青梅地区の新聞です。あと9年走れば、100歳だからね。まだ、走ってみようと思う。このマラソンには、つごう8回出場したが、抽選なので、半分くらいは外れている。出場資格には、体格とかタイムとかいくつかの関門があるし、世界中から申し込んでくる。当日は、コースにあたる道路は午前8時から午後3時までは交通遮断され、地元としても大変な負担になっている。今年で21回目に当たるんでしょう。2月が一番寒い時期だけど、走り出したら寒さは感じない。雨はいいんですが、風は大敵で、大変骨が折れる。この海岸走るんでも雨は走りやすいが、風は砂を飛ばしてくるし、強い風のときは、顔はもちろん、肌に当たると痛いぞ

すよ。いま、足は弱ってないが、バランス感覚が衰えてきた。平衡感覚が衰えてくるのが
気掛かりですね。このあいだ、駅の階段のところで、転びました。歩いている人たちが、い
っせいに走りよってきて「お年寄り、大丈夫ですか。」つっていたわれ、大した事では
なかったので「いゃー、良かったですね。」と大騒ぎしてくれる。もう、嫌になっちゃう
ね。

日頃は、鵠沼の海岸から、茅ヶ崎のパシフィックホテルの前あたりまで往復走って練習
しています。くたびれたら、歩いて海眺めています。いま、ここには休みの日など、
お天気がいいと、列をなして走っています。私が第1号なんです。昭和36年の初夏からで
す。それから、3～4年してチラホラ増えてきましたね。ポッポッ若い人が走り出し、女
性もまじってどんどん多くなりました。今はまったく盛況です。仲間が増えてきますと、
月例湘南マラソンという愛好者の会ができ、6～7年前に鵠沼海岸の自転車置き場をフラ
ンチャイズにし

て毎月第

1日曜を大会に

していま

す。1, 3, 5

10キロと

4段階に種目を

きめて、

ランク分けをし

て、1キロ

組が朝早く am

8～9、

10キロ組が一番

遅く走る

1キロ組は満2歳

から出場

できる。すれ違

うとき、

手を上げて挨拶

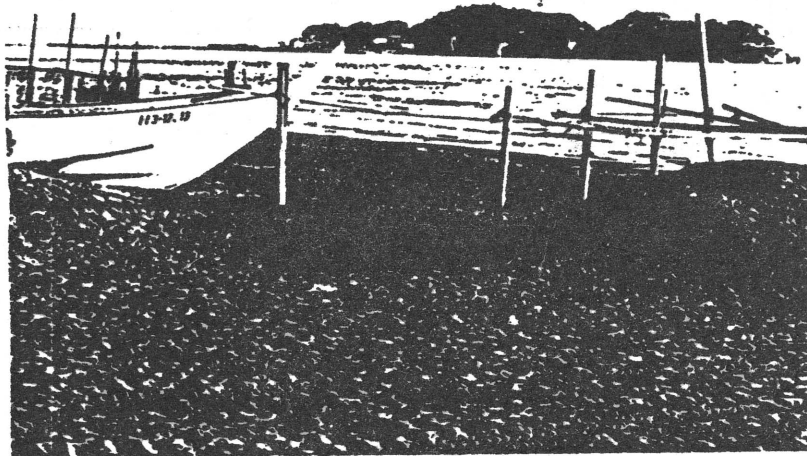
して走っ

ているているが、

↑海岸のマラソン・コースから見た砂浜の漁船↑

私が一番

古いからみんな知っている。この道は、砂避けの垣根が砂浜から二重に簀の子などで作ら
れていますが、十日もほっておかれると、すぐ強風で砂が移動し、砂だまりとコンクリー
トの面が交互に出来て、走り難いし自転車も往生しています。辻堂の海岸には、2～3箇
所に漁船が1～2隻砂浜に上がっていて、小屋などがあつて網でも引くことがあるのでし



よう。あとは、夏でも冬でも年中サーフィン族が群れています。女性もまじっています。ただ、自動車で来るので、ゴミをやたらに捨てる。空き缶やビニール袋を割らかして帰る。そして、ウェット・スーツに着替えたり、脱いだりするし、ポリ缶で水を持参して身体を洗ったりするので、駐車場所をとる。走る者は、目障りですが、同じ楽しんでいるのだから、勝手はいえないですよ。しかし、地元の海岸清掃にボランティアが、団体を作ってゴミ拾いしていますが、それでは追いつかなくらい余所から来てゴミが捨てられてしまう。”サーフ90”とかで、県や企業団体に海岸清掃を呼びかけているけれど、レジャーに来る人への規制をしなくては、もちません。私の町内でも、アパートが増え、ゴミを指定日の前の日の朝出掛ける時に出していき、公衆道徳が無視されている。ワンルームマンションは、夜遅く迄騒いで近所迷惑したり、交代でやうて幾日も遅く迄騒いでいることがある。住宅が狭くなると、置場がなくなり、買い換えると古いのを捨てるし、修理するより、同じ金払うならと新品すぐ買い、古いのを捨ててしまう。綿の打ち返しに出す人なぞ珍しくなりましたね。明後まれには、考えられない世の中ですね。

おわり、

引地川の流域の沿革・年表 有田裕一氏提供

西 歴	記 事
縄文中期	八州台、稲荷台地、大場台地などの上に、この頃の遺跡のあることから集落のあったことが確認される。
300 頃	引地川右岸の辻堂高山遺跡ができる。
800	同左岸低段丘上の稲荷池の辺遺跡ができる。
1594・文禄の頃	高座川を相武の国界とし、境川と称す。
1655・家光の頃	鵠沼新田完成。
1673・家綱の頃	鵠沼村と大庭村との水争いがあり、大庭村が奉行所へ返答書を提出する。（鵠沼新田の用水堰切開に関して）
1713・家継の頃	鵠沼村新田、引地川より水車で水を汲み上げ、新田を開きたいと羽鳥村名主に通知あり。
1728・吉宗の頃	引地川下流、鵠沼・辻堂海岸に鉄砲場が設置される。
1768・宝暦明和	羽鳥村水害につき、年貢減免願を前橋藩浦郷役所へ提出。
1775・家治の頃	引地川に舟を通すことについて大庭、稲荷、石川、円行、羽鳥、辻堂の各村より差し支えない旨幕府へ書状を提出。
1786・天明 6年	引地川橋掛替普請。鵠沼、稲荷、折戸、羽鳥の四ヶ村が請負ことに決定される。この年、引地川に水害があった。
1803・享和の頃	引地川橋普請完了に付き代官役所に報告。
1808・文化 5年	1786年の水害の改修碑ができる。
1823・文政 6年	大庭村両課訪部氏の知行所農民と同村加々爪氏の知行所農民との間で引地川の堰立をめぐり争論が発生する。
1833・天保 4年	境川石上の渡し舟運賃る一人五文
1837・天保 8年	鵠沼村農民と同村空乗寺との間で水車の設置をめぐり争論。

西 暦	記 事
1858・安政 5年	この年、鵠沼村、細川氏（熊本藩）預かり所となる。
1873・明治 6年	鎌倉道片瀬川の渡船を廃止し、架橋する事について神奈川県より大蔵省へ伺。
1892・" 25年	皇太子（大正天皇）皇族、鵠沼海岸で学習院の水泳訓練を見学。 行楽客の誘致策として伊東将行が東屋旅館を建設。
1900・明治33年	徳富蘆花「思い出の記」で10年前の鵠沼を描写す。
1905・" 38年	鵠沼村、関根万蔵ほか2 名が、水平設置願を県知事に提出、認可される。
1906・" 39年	鵠沼海岸6642番地に鵠沼郵便局開局（東屋前）
1910・" 43年 ・	鵠沼懇親会が地元有志により開かれる。海水浴場施設の改善と地元住民の親睦を目的とする。参加者700 人。
1912・" 45年	鵠沼海水浴場準備、伊東将行らが尽力し旅館「あづまや」などを増築する。
1914・大正 3年	旧伊予今治藩主久松子爵鵠沼海岸に別荘を建設。 地主の大給子爵家、東屋付近の土地の貸与、分譲を実施、別荘地としての鵠沼の発展をすすめる。
1917・大正 6年	鵠沼地内の道路開通式開催。 大台風が襲来し、津波で堀川の田が全滅。
1919・" 8年	鵠沼郵便局、鵠沼海岸6 6 6 0 番地に移転。
1920・" 9年	鵠沼地区に電話開通。
1923・" 12年	関東大震災。
1929・昭和4 年	小田急江の島線開通。
1931・" 6 年	引地川の第3 期改修工事に着手。
1934・" 9 年	水路完成紀功碑出来る。

西 暦	記 事
1935・" 10年	鵠沼橋落成、わたり初め。
1954・" 29年	現プールガーデンの位置に、ニエ・アール氏記念碑李徳全女史除幕
1956・" 31年	引地川改修工事起工。
1958・" 33年	鵠沼公民館落成。
1958・" 33年	竜宮橋、高名橋完成。
1961・" 36年	鵠沼プールガーデン開場。
1963・" 38年	遊歩道路に水銀灯設置。
1964・昭和39年	東京オリンピック。
1965・" 40年	鵠沼で新住居表示。湘南海岸の青松、塩害により枯死寸前。
1966・昭和41年	引地川水系水質浄化促進協議会設立。
1969・" 44年	鵠沼橋わきに県下初のスロープ式横断歩道橋完成。
1969・" 44年	市河川浄化対策本部「川をきれいにする」都市宣言。
1971・" 46年	八部に野球場竣工。
1975・" 50年	引地川ぞいに、みどり普及センター開設。
1990・平成 2年	鵠沼橋落橋。

大庭の御厨とその背景（その2）

吉 田 興 一

御厨になぜ「大庭」という地名が付いたか、という疑問が出てきますが、「日本地名研究所編・藤沢の地名」によれば、次のような記事があります。（P. 148）

・・・大庭という地名は大変古く、平安時代に書かれた「和名類聚抄・わみょうるいじゅうしょう」の中にも出ています。また、相模国に十三社あった延喜式内社のひとつである大庭神社もありました。平安時代の末には、この地を支配していた鎌倉権五郎景政が田畑のまったくない荒れ地だったこの地帯一帯の私領の開発をすすめ、伊勢神宮に寄進しました。これが、大庭御厨のはじまりで、室町時代の中期まで続きました。伊勢神宮の神宮文庫所蔵の「天養記」によれば、大庭御厨の範囲は東は境川、南は相模湾、西は寒川境、北は大牧崎といい、小出川の流れて遠藤・亀井野地域までに及んでいたようで、現在の大庭に比べると、かなり広大な地域を占めていました。お伊勢の宮は、大庭の城（たて）集落の神明社で、鎌倉権五郎景政が大庭御厨の中心とした大神宮を建立したのがはじまりだといわれています。御厨の範囲だったと言われる市内の各所にも神明社が祀られています。藤沢には領家町という地名が残っています。領家というのは、御厨の給主である荒木田氏のことをいったことばです。藤沢と鵠沼にある車田という地名は神田管理の慣行を示す言葉であるともいわれ、大庭御厨の神田があったことに由来する地名とも考えられます」とあります。なお、加藤徳右衛門氏の著書「現代の藤沢」では、「鵠沼は総てが沼沢地であって、僅かに東北に丘あり、茲に皇太神宮社の在る付近には、上村（神村）あり、宮の腰あり、刈田（神田）あり、この部落は蓋し鵠沼住民のよるものならん。」また、「藤沢市の動物地名考」（小林政夫氏）の記述のなかに「鵠沼の集落は、鵠沼皇太神宮の創立の時期とか、鵠沼西宮越遺跡、鵠沼神明地区土師遺跡の位置から考えても、平安時代末葉には現在の引地・上村に出来上っていて、地名の起こった年代も当時と推定して良いと思われる。」とあります。また、藤沢のお伊勢山、今田の神戸（こうど）、辻堂の神台といった地名も大庭御厨に由来するといわれています。ちなみに、大庭氏は建久四年（113）に失脚し、扇谷上杉氏が変わって支配権を握り、その家臣太田道灌が大庭城を修理築

城しています。大庭城は永正九年（1512）に上杉朝長が北条早雲に攻められ落城してから早雲が鎌倉に築いた玉縄城の支城的な役割しかなくなり、次第に城としての機能を失っていきました。・・・以上一部を除いて「藤沢の地名」から引用しました。

次に「神奈川の歴史」・・・村上 直著；の記述の中に、「天養記」（伊勢神宮所蔵の古文書）には、大庭景正と源義朝の二人の武将が登場している。このうち、大庭景正とは、鎌倉権五郎景正のことで、（私の前編では景政とした。）保延7年（1141）に「相模国司解案」によると、景正は先祖より相伝の私領を伊勢神宮に寄進した。開発したのは1104～6年のことで、天養2年（1145）3月の宮宣旨によると、その地理的範囲は、東は玉縄庄、西は神郷、北は大牧崎とある。神郷とは寒川で大牧崎とは何処だかはっきりしない。「神鳳抄」などの中世の伊勢神宮関係の史料によると、御厨は12-13の郷によって構成されたとある。「天養記」や「吾妻鏡」などの、古代・中世の資料から具体的に確認できるのは鶴沼・殿原・香川・俣野・酒土・菱沼・堤の各郷である。「和名抄」に登場する大庭郷も当然含まれていたであらう。何れにしても、相模台地の南端、境川や引地川下流部の台地と沖積地を舞台にしていた。

義朝の乱入の事件を詳述すると、天養元年（1144）の9月8日に起こった。この日、清原安行という人物と国司の官人とが、鶴沼郷に乱入し、天宮の供祭料の魚を奪い、「当郷は、鎌倉郷の内たるべきことは、国司の庁宣に明らかである」ので、「明日からはさのように処置する」といい放ち立ち去った。御厨の神人たちは不思議に思っていたところ、翌9日には、馬八疋を引き連れ、大豆や小豆などの作物を刈り取った。伊勢神宮の神人たちのリーダー格の荒木田彦松は、当郷が鎌倉郷内ではないことを理論的に反駁したが、聞き入れなく、その夜子の刻に、ふたたび多数の軍兵を引き連れて夜襲をかけ、郷内の住人を捕え、抵抗する彦松らを死傷させた。また、国役を免除されている殿原・香川両郷にも国役をかけてきた。このことは、9月10日の訴状で、御厨の神人は切々と神宮に訴えている。実はこの事件の起こる前、鎌倉の館に居住している源義朝が、「この鶴沼郷が鎌倉郡内にある。」と突然主張してきた。そのとき御厨の荘官の地位にいたのは、景正の子孫と思われる景宗であった。景宗ははからずも、とてつもない人物を敵に回し、窮地に陥るこ

とになった。そして、9月9日の事件があつてから、ひと月後、10月21日に田所目代という地位にある国衙のリーダー格の人物が、先の清原安行・三浦庄司吉次・その息子の吉明・中村庄司宗平・和田太郎・同助弘ら千余騎が御厨に乱入した。そして、この武力を背景に22日の卯の刻（午前6時）から在庁官人たちは、各郷に押し入り、御厨の境を示す表示を抜き取り、作田九五町の穫稲四万七五〇束を押し取り、下司の私財も奪い、あげくのはては、神人紀恒以下を簀巻きにするなどの乱暴を働いたのである。これは、単に鵜沼郷が鎌倉郡内かうんぬんの問題ではなく、大庭御厨の領主権さえも否定するような様相を呈していたのである。この事件では、源義朝、三浦・和田一族、中村庄司等々、相模の在地領主、清和源氏の棟梁と中世社会の主役が続々と登場しているのは興味深い。これらの報告は、天養2年2月7日の伊勢恒吉が神宮に訴えたものである。その後伊勢神宮側の工作で一応鎮静化したらしい。

いずれにしても、相模における覇権をねらう源義朝、荘園整理の政策を利用して収公をねらう国司、そしてその力を逆に利用して私領拡大をもくろむ在庁官人である在地領主たちの三者三様のからみのなかで、今の湘南地域を舞台に中世幕開けの死闘が展開されたのである。・・・・・・

かまくら春秋社発行の「鎌倉の豪族Ⅰ」（青山学院大講師・野口 実著）の文中のこの事件の様相を次にご紹介します。

天養元年（1144）9月8日に起こったこの事件は、源義朝が相模国留守所、田所目代（国守の代官）源頼清と結託し、郎従清原安行を在庁官人と共に遣わし、9月9日の日に、神宮供祭料の魚を奪い、大豆・小豆等を刈り取らせたのみならず、郷内の在人を搦め取ったり、神人に重傷を負わせる乱暴を働かせた。これに対して大神宮側は、早速太政官に9月10日に提訴を行っている。義朝は再び、10月21日に、彼の名代清原安行のほか、国衙の軍事警察部門を担当し義朝の配下にあった三浦氏・中村氏などを乱入させた。事件後、天養2年3月4日に下された官宣旨によって、頼清・義朝の妨げが停止（ちょうじ）され、御厨はその存在が確定されたのであるが、（以上「天養記」による。）結果的

には大場氏はこれを契機に義朝のもとに服属を余儀無くされたのである。・・・・・・

さて、私はここに二つの著書の抜粋を記載して、「義朝の乱入」を詳述したのであるが、前編の「神奈川県歴史」（中丸和伯著）にもあるように、鵠沼のこの事件は、単に一過性のものではなく、中世の武士の私領拡大への執念とか、支配地の争奪とか、自己の勢力圏の確保に血道をあげていた一端を示しているのである。今、NHKのテレビ大河ドラマ「太平記」の建武中興の挫折の原因は、異常なまでの領土への執心を恩賞で満足させ得なかったことにあるのと同じである。この当時も、後醍醐天皇を権力者とする公家達の増長傲慢が武士達の生存を脅かすまでの不安を引き起こした世情が存在していた。これに類することは摂関政治の末期、源平二氏をあい戦わせ、その間隙をついて、朝廷の勢力を拡張しようという後白河上皇の企みがあり、朝廷と武士の相剋があった。歴史は事実の変遷も面白いがその裏面史も、とくに興味津々なものがある。

なお、「藤沢通史」・発行藤沢市教育委員会・の42ページに、大庭御厨について詳しく記述されているが、ここでは再掲しない。

さて、その後鵠沼が歴史に登場する機会は久しくないのである。

おわり。

引地川の水源地探訪記

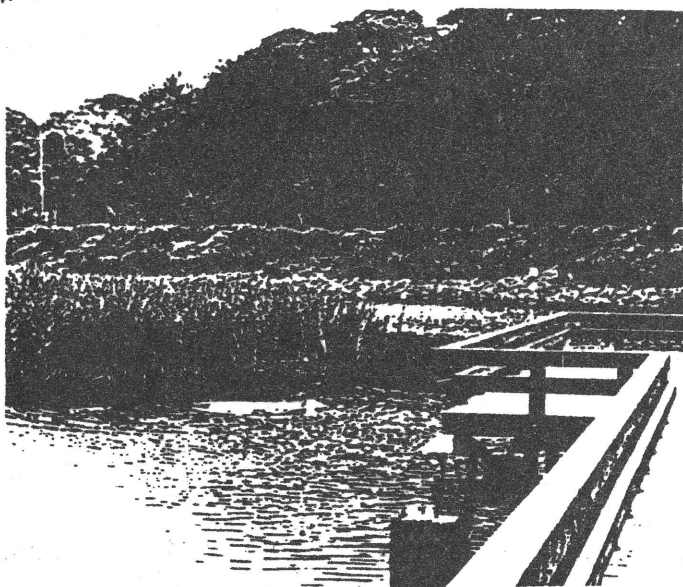
遠藤 隆 二

私は少年の頃から野山を歩き回るのが好きだったから、関東近辺の山々は殆ど歩いている。まだ電灯がなかった昭和12年頃、奥多摩の川久保に一泊して大菩薩峠に登った時には、多摩川の源泉らしいものを見つけて、宝物を発見したような喜びを覚えたことを思い出す。峠を越して甲州側に下りれば、反対側に流れる小さなせせらぎがあった。おそらく甲府盆地を流れる笛吹川の水源であろう。

勤めの関係で、北海道室蘭に住むことが長かったので、あの辺の山々も大部分は歩き尽くした。室蘭は川の少ない市であったが、川巾5㍍程の知利別川という小さな川があり、市民の生活用水の大切な水源であった。水源地の奥に小さな水神の祠があり、年に一度、弥都波能売神（みずはのめのかみ・伊邪那美命が火の神を生んだときの化生した神のひとり）と書かれた小さな幟が立った。水は飲めの神とは随分ふざけた名前の神様だと思っていたが、後年になって古事記の中に弥都波能売神を発見し、これ又砂利の中から珠を拾う思いをしたことであった。

さて、引地川の水源地探訪であるが、平成3年秋の鵠沼公民館祭りには、「鵠沼を語る会」15周年の催しとして地区に関係

の深い引地川の、引地橋より下流について調査して発表しようということになった。川というものは、我々の先住民から現代に至るまで数千年間もおそらくその生活とかかわりの深いものであったろうと思われるからである。然し、引地川の源流についてもよく知らない、探してみようと思い立って、8月18日午後、小田急鶴間駅に集まったのは、寺田さん、以下川上、吉田、菊田、遠藤の



↑公園内の散策用の池↑

五人と女性では唯一人佐藤和子さんが参加してくれた。佐藤さんは、大分以前に水源を訪

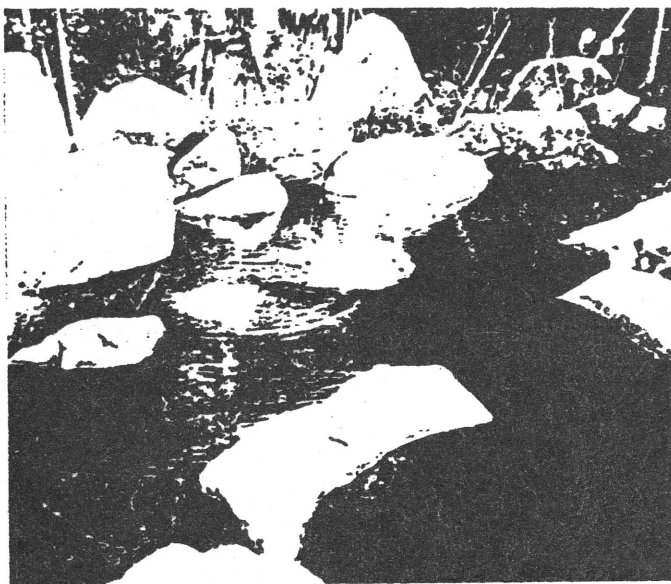
れたことかあったそうで、およその見当で案内してくれたが、この辺りの道路や家並みの変わり様は激しいもので、案内にも一苦勞であったようだ。

鶴間の駅から線路沿いにまっすぐ南下して上草柳に至り、直角に右折して二・三人の人に尋ねながら上草柳を西に行けば「泉の森公園」入口の案内板があった。

水源地を思わせるような森の起伏と浅い谷間がある。森の小道を少し下がれば右側に水源地らしい施設がある。金網で嚴重に囲まれていて中には入れない。神奈川県企画庁水道局寒川浄水場の標示がしてあって、金網越しに中を窺うより仕方がなかった。奥の彼方に水源池らしい池がかすかに見える。地図に大和水源池とあるのがここである。此处から金網をくぐって小さな川が流れ出している。柵の中には入れなかったのもこれ以上は水源を見ることは出来なかったが、池に注ぎ込む源泉はまだこの奥に有るのかも知れない。「この川はホタルの川です。・大和市役所」と書いた看板があった。この辺が泉の森公園の北の入口だが、南に広く開けて、昔は谷戸田があっただろうと思われる所に、立派な自然公園が造られている。

我々も水源探訪の目的を終えてのんびりと散策を楽しんだ。水源管理人らしいお年寄りに、昔のことを尋ねてみたが、古いことはなにも知らなかった。ただ、この水源の水が寒川町の水道用水であることを教えて

くれた。南北に細長いこの自然の公園には、遠慮会釈なく国道246号のバイパスが頭の上を大きく横切って、自然の景観を損ねているのは残念であった。バイパスの下を潜り抜けると、公園は広い湿地帯に展けている。ここに引地川の人工の水源地が造られているが、上流の池からポンプで湧き水を造っているものである。大きな水車もあるが、これも遊園地向きに造られたもので昔ながらの趣はない。



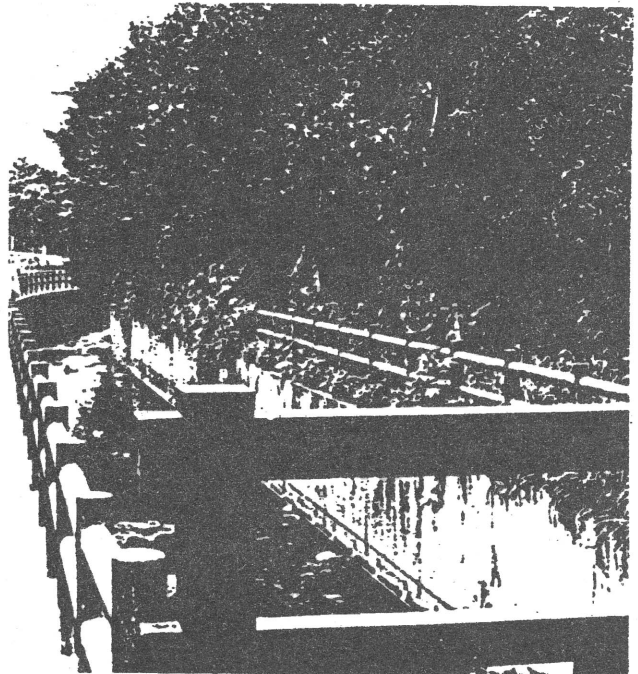
↑水源に似せて造られた人工の池↑

ここに来る手前にこの土地の地主でもあったのだろうか、結構立派な墓があった。何家の

墓だったか名前は忘れてしまった。更に南に行けば大きな池が二つ程あって公園は終わるが、水鳥が何羽か泳いでいた。未だ、自然が保たれている良い公園である。

公園からのぼってバス通りに出たが、小さなダムの上に橋がある。その欄干には「ひきがわ」と書いてあった。下方右手に巾一間程の排水溝がまっすぐ流れている。この流れが大和市の上草柳、草柳、柳橋、福田と北から南へ貫流し、長後で藤沢市に入るのである。バス通りに出ると「草柳園つり堀」などもあった。

バス通りを大和駅に向かって帰途についたが、草柳原バス停の近くであったか、厚木の米軍機の墜落による一家の無残な事故のあった記録の標識が、忘れかけた記憶を思い出させてくれた。東名高速の下を通過して



↑水源から流れ出る人工のせせらぎ↑

小田急線に出たが、この辺りは廃棄物が多く、乗用車がそのままスクラップ同然のものなどひどいものであった。腹の立つこと甚だしい。線路沿いに南へしばらく行き、大和駅に着いたが皆さんは全く健脚ぞろいであった。

私は常に最後尾を遅れて歩かざるを得なかった。おそらく二万歩は歩いたろう。遅く歩けば、まだまだ相当のピクニックができそうである。

この日の水源探訪では、水神さんもお不動さんも見つけることは出来なかった。小さな川でも水源をたどって行けば、水神さんやお不動さんを見かけることが多い。引地川には滝は無いようだから不動様はどうか判らないが、水を畏れ水に感謝して生活した先住民達が祀った水神（ミヅチ）様が何処かにいるような気がしてならない。

平成3年10月25日記す。

おわり。

「鵠沼」第62号
平成3年11月19日発行

老いはいずこに宿るべき
田中まさ子
マラソン青年・新城弘三
翁に聴く 取材記録
引地川の沿革・年表
有田裕一
大庭の御厨（その2）
吉田興一
引地川の水源地探訪記
遠藤隆二

編集・発行 鵠沼を語る会

鵠沼公民館
電話 33-2001
藤沢市鵠沼海岸 2-10-34